

札幌市立上白石小学校の取組【読書：中央図書館活用授業】

1 研究のねらい

- 本を探す活動を通して、本の分類や配架の工夫について知るとともに、自分たちの調べ学習に図書を役立てようとする意欲をもつ。
- 中央図書館児童書コーナーからクイズに合う資料を見つけ、情報カードへまとめる仕方を練習する。

2 取組内容

5年生の総合的な学習の時間で学習する「ユニバーサルデザインを広げよう」では、体験的な学習に加え、図書資料を活用して調べ学習を進めた。学習のはじめに、どのような図書資料があるかを知ることに関心を深め、見通しをもって取り組むことができると考えた。

様々な資料に触れ合うとともに、必要な情報を記録することができるように、問題を書いた10枚の情報カードを渡し、班の仲間と協力して取り組むこととした。

問題の内容は、「ユニバーサルデザインとは」「バリアフリーとは」といった言葉の意味を問うものや、「パラリンピックの種目を三つ書こう」「『補助犬マーク』とはどんなマークでしょう」など、様々な分類番号に分かれて図書を探しに行けるように工夫した。また、事前にどれだけ関連する図書があるかを学校図書館、中央図書館双方で確認し、決定した。

(1) 学校図書館を活用する。

①分類と配架を復習する。

学校図書館の利用指導として、3・4年生で分類と配架については1時間ずつ学習をしている。問題に合う図書を、番号をヒントに探すことができるように、もう一度書架を前に日本十進分類法と手掛かりになる言葉を確認した。



②情報カードの書き方を復習する。

4年生の学習で、情報カードには1枚につき一つの事柄を書くことや、書名や出版社などの情報を書き込むことなどを学んだ。今回は、ユニバーサルデザインに関わる問題が書かれているので、必要な答えのみ書き出すことと必ず参考資料を明記することを確認した。



③図書を探し、必要な情報を書く。

班ごとに、百科事典や国語辞典、番号を参考に探した図書などから、情報カードに答えを記入した。なかなか見付けられないグループには、手掛かりになる分類番号や索引の見方を伝えるなど、適宜担任とともにヒントを与え、必要な図書を手にすることができるように活動を進めた。

(2) 中央図書館を活用する。

① 中央図書館の配架を知る。

2時間目は、実際に中央図書館で類似問題に取り組んだ。司書教諭が学習の流れを確認した後、司書から中央図書館についての説明を受けた。その際には、館内の配架地図を用意していただき、ヒントになる分類番号も書き入れてもらうことで、初めての場所でも図書が探しやすいように工夫をした。



② 必要な図書から、情報を見付ける。

中央図書館の児童書コーナーにある図書の中から、問題に合う図書を探し、情報カードに記入した。児童は、学校図書館での経験を生かし、番号から見当を付けて探そうとしていた。迷っている児童には司書、司書教諭、担任が声を掛け、最後まで意欲的に取り組んだ。



二つの図書館で体験したことを簡単にまとめ発表した。「同じ番号でも中央図書館にはたくさんの本があってびっくりした」「調べるやり方が分かったので、もっとやってみよう」など、楽しみながら図書館の使い方に慣れることができた。

③ 学習を振り返る。

二つの図書館で体験したことを簡単にまとめ発表した。「同じ番号でも中央図書館にはたくさんの本があってびっくりした」「調べるやり方が分かったので、もっとやってみよう」など、楽しみながら図書館の使い方に慣れることができた。

3 成果と課題

(1) 成果

学校図書館で分類番号や配架の学習はしていたが、実際に中央図書館に行くことで、そのよさを感じることができていた。また、たくさんの図書に出合うことで、図書を活用した学習に対する意欲を高めた。



また、百科事典や辞典の使い方、目次や索引から必要なページを見つけること、情報カードに必要事項を記入する仕方など、これまで資料の使い方について学習してきた内容をまとめて復習し、これからの学習への手掛かりとすることができた。

さらに、中央図書館の司書と連携をとることで、十分な資料を確保して授業に向かうことができた。今後の学習でも連携を図る。

(2) 課題

学校図書館を活用した学習は、各学年で身に付けるべき事項を全校の共通理解とし、計画的に進めていく必要がある。各教科の学習の中で、資料の使い方や図書館の使い方を繰り返し練習できるようにする。そのためにも、司書教諭が中心になって計画を立てたり、推進していったりできるようにする。

